

2015年6月3日(金)

# 未来への扉



高等特別支援学校 支援部 第84号

## 今、身につける力、ソーシャルスキル

3年前、大阪教育大学名誉教授で、大阪医科大学LDセンター顧問でもある竹田契一先生に

### 「就労生活支援を見通した在学中の指導・支援」

のタイトルで講演をして頂きました。下はその資料の一部です。

#### 思春期はソーシャルスキルから

1. 小学校はまずアカデミックスキルを徹底
2. 幼小中学校はコミュニケーションスキルを家庭で行う
3. 中学校以降の中心はソーシャルスキルの確立  
(友達関係、社会のルールなど)
4. 周りに合わせる力、周りの気持ちの読み取りなど
5. 高校生では就労を視野にライフスキルの導入も

4つのスキルを少し解説します。

アカデミックスキル……ここでは読み書き計算など基礎学力  
コミュニケーションスキル……会話を中心とした気持ちのやりとりをする力

ソーシャルスキル……日常生活や人間関係の中で適切な言動をとる実践的な力

ライフスキル……生活(料理、お金、衛生等)、余暇、異性との付き合い方など、自立をかなえる力

学校で勉強する内容という、イメージ的にはアカデミックスキルを真っ先にイメージしやすいと思います。しかし、社会に出る直前の今、身につけたい力は変わってきています。

社会で通用する実践的な力、ソーシャルスキルの中のひとつとして、“失敗をしない”ではなく、“失敗した後、正しく行動する”ことについて下にかかせていただきます。実際に学校で行っている例としてレンタル体操服の話です。

#### 例：体操服等を忘れた場合

- ①職員室側のレンタル用具がたくさん入っているケースから自分の体格にあったサイズのものを選ぶ
  - ②先生に申し出、“貸し出し簿”にクラス、名前、レンタルするものを記入して、先生のチェックを受ける
- ← 使用 →
- ③自宅(または寄宿舍)で洗濯する
  - ④職員室で先生にチェックを受け、元のケースに戻す

失敗は誰しもしたくないものですが、誰でもします。

失敗しても基本的には上のように、

- 1 報告、相談する(場合によっては謝罪も)
  - 2 自分でできるだけのフォローをする(やり方が分からなければ質問する)
- で大丈夫なのです。

そういえば、もう何年も昔の卒業生が1年生の今頃、初めて体操服を返しに来た時、こんなことがありました。

寄宿舍生の、とても真面目な生徒でした。渡された、きちんとたたまれた体操服は、じつりと濡れていました。私は確かにいつもの説明で昨日「洗って早めに返してね。」と言ったのです。

「これ、濡れてるね。このままケースに返していいかな？」  
 「……………だめだと思います。」「どうすればいいと思う？」  
 「干せばいいと思います。」「正解！一度持って帰ろうね。」  
 「はい！」

フォローができない幼い頃は、怒られないまでも失敗した自分にしょんぼりする事もあったでしょう。成長して今があります。学校でも細かい失敗をいっぱいして、やり直しの場数も踏んで、こうすればいいんだというやり方を身につけ、安心感を持って社会に送り出したいものです。

## ソーシャルスキルとは

「生活や人間関係の中で、適切な言動をとる実践的な力」なのですが、もう少し詳しく紹介します。

ソーシャルスキルは、社会技能や社会的スキルなどと呼ばれる事や、対人スキルと同じ意味で使われる事もあり、はっきりとは決まっていません。WHOではライフスキルの中の一部としています。

人間関係をうまく築けない子が社会全体に増えており、SST(ソーシャルスキルトレーニング)が必要になっています。学校は同級生や先輩、後輩、教師など大勢の人と関わる場所です。ソーシャルスキルを築くうえで影響の大きい場所のひとつなので重要視しています。下に例を書き出してみましたが、これだけではありません。

#### ①基本のソーシャルスキル

あいさつをする、ルールやマナーを守る、時間や順番を守る、基本的な生活習慣・身だしなみ など

#### ②対人のソーシャルスキル

会話をする、人の気持ちを考える、自分の意見を上手に伝える、説明するなど

#### ③感情のソーシャルスキル

感情に気付く、コントロールする、我慢する、上手に伝える、プラス思考、ストレス解消など

2,3年生は現場実習、1年生は校内実習&特別実習が終わりました。

仕事現場の作業スキルとともに、ソーシャルスキルトレーニングとしても貴重な体験になったと思います。お疲れ様でした。

